

ふるさと歴史散歩

〔第105回〕 出張城跡（宮の町三丁目付近） その三

菅原守編『芸州府中荘誌』によれば、天文年間大内義隆の大軍（毛利元就軍）に攻められた出張城主の白井越中守房胤（小林利宣教授論証から備中守の誤記）は、道隆寺を本陣としたが敗れて自刃した際に、郎党が首を洗って首塚を建てたことから、この地を「御首」と称し、後に「尾首」と変更したと記している。また、この地にある「尾首の池」は「首洗いの池」とも伝えられている。因みに、道隆寺はこの戦いの兵火のため灰燼に帰したが、その後、広島城主となった毛利輝元が堂塔を再建した。

これに対して、小林教授は、「尾首」は中世山城には攻守の地理から「城の尾首」を持った地形が活用され、出張城の後背地としての尾首であり、「陰徳太平記」その他の軍記物に各地の戦場で「城の尾首」という呼称が用いられている。したがって小林説では、白井備中守の首洗いの伝説とは全く関係なく、自然地形の部分名からの地名だと云う。筆者が調査し描いた地形図（『安芸府中町史』第二巻、151ページ）を見ての通り、出張城は完全に独立した丘陵であり、すぐ近くの埃宮・長福寺・神武天皇聖蹟碑などがある東西方向に延びる丘陵の吸口庵（尾首観音堂）下に「尾首池」があり、この場所が地形上から見て、明らかに「城の尾首」であることは間違いないし、自然湧泉が「尾首の池」であり、この辺一帯が白井家臣団の居住地であり、「尾首の池」が生活用水であったと考えられる。近世初期の寺院過去帖には、「出張尾首」が最も古く（「町内の地名の由来」『安芸府中町史』第一巻、121～125ページ参照）、続く『国郡志下調べ書出し帖』にも「尾首」としか書かれていないのであって、決して「御首」の表記でないことが重要

である。菅原説では、最初は「御首」と称していたのが、後に「尾首」となったと云う。古い寺の過去帖や古記録は最初から「尾首」であって、「御首」ではない。伝説はあくまで伝説であって、それを歴史的事実とするには確かな史料が必要となる。

府中町文化財保護審議会会長
横田 禎昭



正しいごみ出しにご協力を

府中町環境センター（八幡四丁目1-1） ☎286-3266



家庭ごみなどの持ち込み

お盆の期間中は、環境センターへのごみの持ち込みが多く、大混雑します。次の事項に注意して、正しい方法で持ち込んでください。

◆受付時間 月～金曜日（祝日、年末年始を除く）

午前9時～11時30分・午後1時～3時30分

※住所を確認できるものを持参してください。

（運転免許証、健康保険証、ハガキなど）

◆持ち込み方法 通常収集している各種類のごみは全て自己搬入できます。ごみステーションに出すときと同じ方法であらかじめ分別してください。分別できていないごみは受け付けできません。また、様々なものを多量に持ち込む場合、場内で降ろすのに時間がかかります。後から来る人を待たせないよう、ご協力をお願いします。

◆注意事項

○黒い袋での搬入は不可。透明または半透明の袋を使用する。（新聞・雑誌、ダンボールは、ひもで縛る）
○缶、ビン、洗剤、塗料などで中身のあるもの搬入は不可。使い切っていないガスボンベ缶、スプレー缶は、必ず中身を使い切り、穴を開けずに持ち込む。

◆持ち込みできないもの（購入先・処理業者などに相談を）

○ガス類、液体もの（塗料液、油、灯油、ガソリン、エンジンオイル、シンナー、洗剤液など）
○薬物、毒物、劇物、危険物など
○医療系廃棄物など
○産業廃棄物（石膏ボード、業者が行った剪定ごみ・改装ごみなどの廃棄物などを含む）
○他の市町村から発生したごみ
○その他、町で処理できないもの（ソーラーシステム、金庫、タイヤなど）

8月中旬（予定）までストックヤード建設工事を行っています。ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

ごみの不法投棄は、犯罪です！
不法投棄を目撃した人は、警察に通報してください。

ごみを出す時間に気をつけてください！
前日の夜や早朝に出すとカラスが見つけて荒らすことがあります。